



ブラジルの政策金利の引き下げについて

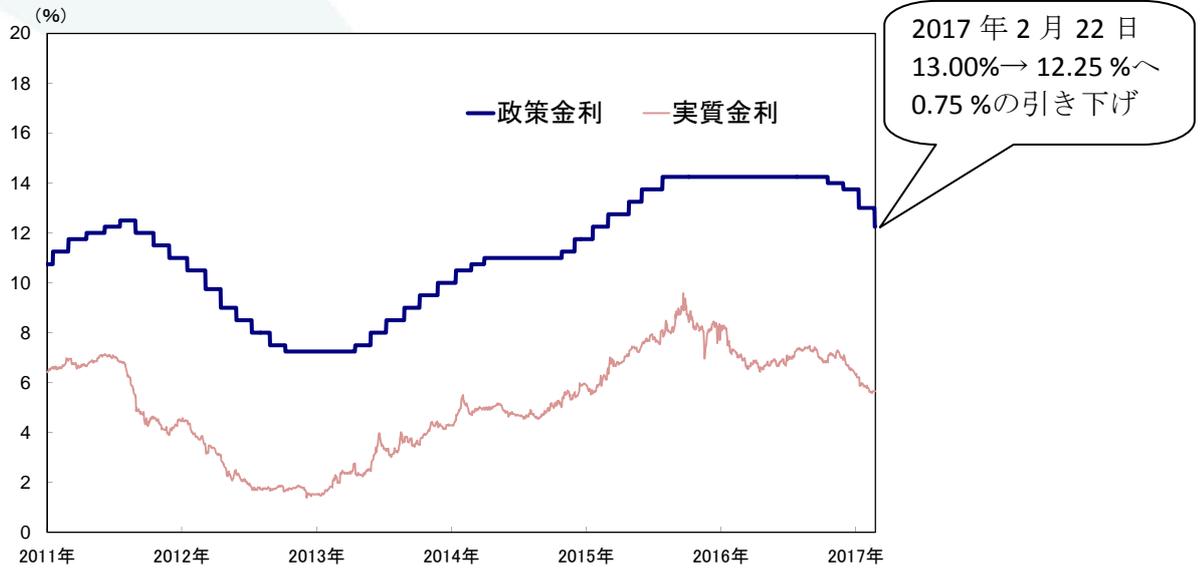
2017年2月22日(現地時間)ブラジル中央銀行は、COPOM(金融政策委員会)において、Selic(政策金利)を0.75%引き下げ、年率12.25%とすることを全会一致で決定したと発表しました。今回の利下げは、事前の市場予想通りとなり、前回同様の引き下げ幅となりました。

インフレ率の低下や、ブラジル経済の回復を最優先するという、同中銀の強い意志、および足元のレアルの為替相場の堅調さが金融緩和を加速させたものと見られます。前回(1月11日)開催のCOPOMでは、それまでの2回の利下げが各回0.25%だったのに対し、予想を上回る0.75%に利下げ幅が拡大しましたが、今回の下げ幅も同様のものとなりました。

同中銀は世界的に景気の先行きが不透明なことや、国内景気の回復が想定より遅れていることなどを今回の利下げの理由として挙げました。

次回は、4月中旬にCOPOMの開催が予定されていますが、利下げによる国内景気復調への期待が高まるなか、海外からの資金の流出入や市場動向を注視してまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移
(2011年1月3日～2017年2月22日)



*政策金利:Selicを使用。*実質金利:名目金利とインフレ率を使用し算出
*出所:ブラジル中央銀行のデータよりBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社作成

本資料のお取り扱いにおけるご注意

- 本資料はBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が上記の時点に作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。
- 本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

